

1960(昭和35)年にも「恩納にキビのメンガ虫警報」の見出しで、恩納村にメンガ虫発生警報が出されたことが報じられています。この時は特に喜瀬武原、山田、真栄田一帯のサトウキビに被害が出たようで、被害が広がらないよう対策が呼びかけられています。ちなみにこの「メンガ虫」は通称で、どのような虫なのか資料は確認できていませんが、沖縄県によればサトウキビを食害する虫にはアオドウガネの幼虫やハリガネムシの幼虫が挙げられています。

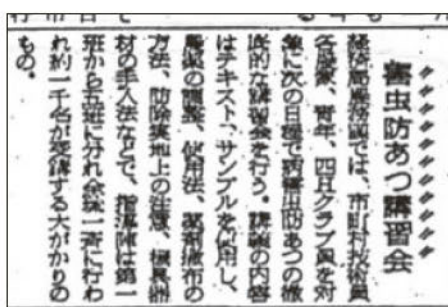
1966(昭和41)年7月4日の琉球新報には「害虫 水稻に異常発生 北部各地にまん延」の記事が掲載されています。県北部の水稻にウンカ(※2)が異常発生し、大宜味村の喜如嘉と田嘉里を中心に国頭村、羽地村、恩納村の水田にも部分的な被害が及びました。

まず病害虫の発生を防ぐと、各市町村で県の技術担当者による講習会が開かれることもありました。たとえば「害虫防

あつ講習会」(沖縄タイムス・1955(昭和30)年11月9日)の記事によると、この時の講習会の内容はテキストやサンプルを使用し、農薬の調整、使用法、薬剤の散布の方法、注意事項や機具器材の手入れの仕方まで講習が行われ、恩納村民を含め県内各地で約1000人が参加したそうです。



琉球新報(1966年7月4日)



沖縄タイムス(1955年11月9日)

【現在】

2024(令和6)年3月、沖縄本島北部で農作物の害虫「セグロウリミバエ」が確認されました。セグロウリミバエはその名の通り主にウリ科の植物に影響を与える害虫で、幼虫が果肉を食べることで作物を腐らせてしまいます。日本ではセグロウリミバエを検疫有害動植物に指定しており、海外からの輸入検査で見えたと廃棄や返送といった対応がとられます。同じミバエの仲間であるミカンコミバエが根絶されるまでの1980年代まで、バナナやパイナップル以外の果樹は沖縄県からの移動が禁止されていました。

セグロウリミバエは恩納村でも確認され、県がテックス板を設置し、不妊虫を放つなど、2025(令和7)年10月現在も対策が進められています。(仲村)



テックス板(誘殺剤)

※1 メイガ科のガの幼虫。稲の害虫として知られ、ズイムシともいう。
※2 稲につく害虫。成虫も幼虫も茎から汁を吸って枯れさせる。

【参考資料】

- ・『沖縄県ホームページ(産業・しごと)』
(<https://www.pref.okinawa.jp/shigoto/index.html>)
- ・『恩納村役場ホームページ』
(<https://www.vill.onna.okinawa.jp/index.php>)
- ・『沖縄大百科事典』(沖縄タイムス社・1983年)
- ・『琉球新報社』
- ・『沖縄タイムス社』